

麦の郷

通信

“麦の郷とは” 住民のニーズから
生み出され、住民の手によって育てられる

May 2023

こじか園/第二こじか園/はぐるま共同作業所/はぐるま共同作業所 和の社/はぐるま共同作業所 ラ・テール/麦の郷印刷/ソーシャルファームピネル/むぎピース/ソーシャルファームもぎたて/meglück(メグリユック)/六星舎/叶夢向/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷 紀の川生活支援センター/障害者就業・生活支援センター つれもて/くろしお作業所/麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/ハートフルハウス 創/事務所/ゆめ・やりたいこと実現センター/ちいき暮らしサポートセンターわかやま/Rework支援センターANEW/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

揮毫：伊藤静美 発行/麦の郷情報管理委員会 TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637
〒640-8301 和歌山市岩橋643 <http://www.muginosato.jp>



はぐるま共同作業所
4月14日(金)河西公園



m e g l ü c k (meguri)
3月29日(水)青洲の里へお花見



和歌山生活支援センター
4月5日(水)亀池公園



くろしお作業所 ひまわり班
3月30日(木)根来



くろしお作業所 たんぼぼ班
3月28日(火)大屋都姫神社



むぎピース
3月31日(金)和歌川河川公園

私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々とつながりを深め、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。

新人職員 辞令交付式

2023年度の辞令交付式をおこないました。
新人職員を代表して、正木春香さんよりコメントいただきました。



3月29日(水)に理事長より職員(総合職)の保育士として辞令をいただきました。

この日を迎えられたこと、また、社会福祉法人一麦会の職員として入職できたこと大変嬉しく思います。

大学2年時の第二こじか園での実習では、右も左も分からず子どもたちと関わることに精一杯でした。4年時からのアルバイトを経て、時にはコミュニケーションがうまく取れず悩んだこともありましたが、一

人ひとりの子どもと遊びを通してじっくりと関わることで、徐々に関係を築くことができたと思います。

「じっくり、ゆっくり、たっぷり、ていねい」に子どもたちと関わる中でたくさんのことを吸収し、一人ひとりに合った保育を丁寧に行っていくよう努力していきたいと思っています。

一生懸命取り組んでいきます。よろしくお願いいたします。
(第二こじか園 正木 春香)



ふたつのセンターがいっしょになりました



令和5年4月1日より、「麦の郷和歌山生活支援センター」と「サポートセンター麦の郷」が一体化し活動を開始しました。

今回の合併により職員が総勢10名となり、それぞれの相談支援事業が一歩進みました。それぞれの事業所で対応していたケースを共有し、より多くの意見を出し合いみんなで考えながらベストな方法を模索していきます。これまで同様みなさんのアドバイスもいた

だければと思っています。

また、今までと変わらず地域活動支援センターI型の事業も継続しています。興味のある方はお声がけ下さい。

昨年、この建物に移転してからは「就労継続支援B型おきピース」と「和歌山高齢協 みんなの居場所 お茶の間★あい愛」も活動しています。それぞれの強みを活かして時には助け合いながら、毎日賑やかに活動しています。

地域の方ももちろん、たくさんの関係機関の方にもご利用いただけるような、また利用していただくみなさんにはホッといただけるようなセンターにしていきたいと思っています。ぜひお立ち寄りください。

皆さんとのつながりを強みにして障がいのある人もない人もあるがままに生活できる地域を一緒につくっていきましょう

(麦の郷和歌山生活支援センター 森本 真己子
木下 裕子)

就労継続支援B型事業所『meglück』誕生!

meglückは、旧Po-zkkの名称が変更し、出張所創HAJIMEcafeと、ソーシャルファームもぎたて出張所meguriが統合し、新たな一つの事業所となりました!

・ものづくりや表現活動 ・有機無農薬の循環型農業 ・創cafeの運営
などを通していろんな人とめぐりあい、仲間も職員もそれぞれの個性を活かしながら一緒に創造する共同作業所になればと思います!これからもよろしくお願いいたします。
(meglück 施設長 森橋 美穂)

meglückの名前には4つの理念が詰まっています

- めぐりゅっく=めぐり(巡り)+リュック
 - ・めぐり…めぐり会う・めぐり合わせ(新しいなにかとの出会い)人・自然・作物が循環し、地域とつながり持続可能な農業(社会)を創る。
 - ・リュック…自分の好きなものや夢、楽しみをつめこんでゆっくり歩む。
- meglück =me(芽)+glück(幸福)
 - ・me…植物が小さな芽から成長発達するように、一人ひとりの才能の芽を伸ばし創造していく。
 - ・glück…ドイツ語で幸福・幸せの意味。幸せを見つけ自己実現・自己表現する。



〒649-6531
紀の川市粉河 1758-1
TEL 0736-79-3611・FAX 0736-79-3622
メール: megluck.2023@gmail.com



地域活動支援センター合同zoomクイズ大会について

2月14日(火)に地域活動支援センター合同レクリエーションがオンラインで開催されました。

今回は地域活動支援センター櫻、岩出障害児者相談・支援センター、麦の郷紀の川生活支援センター、麦の郷和歌山生活支援センターが参加し、じゃんけん大会、難読漢字の読み方クイズ、〇〇といえばクイズ、ジェスチャークイズ、〇×クイズの計5種類のクイズ大会をしました。

クイズの出題も回答も、みんなで協力し合いながら楽しくスムーズに行うことができ、とても盛り上がりました。

和歌山生活支援センターは1位にはなれませんでした。終わった後も「とても楽しかった」「またやりたい」とみんな声を揃えて言ってくれました。どんな問題を出題するか、他のセンターと出題する問題が被

らないか、問題が難しすぎないか、過去に同じ問題が出題されていないか…等を数週間前からみんなで考えたのも、団結感が生まれ良かったのかもしれない。



次はどのような合同レクリエーションをするか、またみんなで楽しめるように考えていきたいと思えます。オンラインはオンラインの良さがあり便利な所も色々ありますが、コロナが5類へと変わった後は、久しぶりに皆集まって何かするのも良いかもしれませんね。

最後に、今回出題した問題から一つ〇×クイズを載せておきます。

「アンパンマンの中身はこしあんである。〇か×か。」

正解は和歌山生活支援センターまで。

(麦の郷和歌山生活支援センター 構口 大輔)

高校野球観戦にヘルパーさんといってきました！

ばーりーホームの稗田さんが、先日3月21日に甲子園春の選抜高校野球観戦にいってきました。その日は春分の日で祝日ということもあり、移動支援を利用してもう気心知れたヘルパーさんと朝早くに電車を作り継ぎ、甲子園に到着！第一試合は途中からの観戦でしたが、第三試合までしっかり観戦してきました。稗田さんのお父さんが野球チームの監督であったことから物心ついて、すぐに野球が大好きだった稗田さん。コロナ禍であったため久しぶりの大阪、非常に楽しかったようで帰ってからもしばらくは野球熱が冷めず、次回はWBCを観戦したいそうです！！

(麦の郷居住福祉事業所 武田 賢二)



「甲子園の球場」って、フィギュア？

こむぎの郷一泊合宿



コロナ禍になってから、創での旅行ができなくなり3年…。

久しぶりに泊まりレク！！こむぎの郷へ行きました！

日帰り参加もできるようにし、泊りでは参加しにくい仲間の参加もできました。

広いスペースでフルーツバスケットをしたり、ボードゲームをしたりして遊び、焼肉やお好み焼きをたくさん食べました。お酒を飲みながら、日中の活動内では時間が足りなくてできない話を夜遅くまで語り合いました。

(ハートフルハウス創 圓山 歩実)

くろしお作業所もも班、くろさわ牧場へ行ってきました！



3月16日(木)にくろさわ牧場へ行ってきました。くろしおでは、毎年3月に1年間お疲れさまでしたという意味を込めて「お疲れ様会」をします。今年もお疲れ様会の時期になり、なかまに行先を募ったところ「牛が見たい！」という意見が。牛が見れる場所…くろさわ牧場!となり、くろさわ牧場に行くことに決定しました。久しぶりのちょっとした遠出に、なかまもテンションが高く、嬉しそうな様子でした。牧場で牛とふれあい、アスレチックで遊び、充実した日となりました。またこれから1年間、気持ち新たにみんなで頑張っていきたいと思えます。

(くろしお作業所 川崎 愛香)

和の杜 事業所紹介

はぐるま共同作業所和の杜では、納豆を製造する「納豆工場」、ポップコーンやドライフルーツなどを製造する「お菓子工場」、コロクックなどを製造する「コロクック工場」の3工場に分かれ、利用者27人、職員7人の総勢34人で日々食品製造を行っています。

朝、仲間が出勤する頃には納豆用の大豆を蒸す香りが漂っていますが、時間が経つにつれてポップコーンの甘い香りやドライフルーツの原材料になる爽やかな柑橘の香り、はたまたコロクック用の玉ねぎを炒める香りやカレーを煮込む食欲をそそる香り…など、匂いだけでもわかるように、和の杜の敷地内では様々な食品を製造しています。和の杜のこだわりが詰まった商品は、各産直市場などで売られているだけでなく、農家さんの名前で販売していたりし



ストランで調理されて提供されています。皆さん気づかないうちに口にしているかも？かもしれません。

和の杜は来年4月で開所から20年を迎えます。これからも生産者さんや、手に取ってくれるお客様が笑顔になる食品づくりを一人一人の職人達と共に行っていきたいと思えます。

(はぐるま共同作業所 和の杜 大末 翔平)

むぎ・わくわくレポート19



私が勤める作業所にはいろんな人がいます。寡黙な人、話がしたくてたまらない人、一日の段取りを考えて動く人、目の前の仕事をコツコツする人、ときどき周りをピリッとさせる人、笑顔でみん

なを和ませてくれる人、ゆっくりだけど丁寧な人、ちょっと雑だけど仕事が早い人…。個性が違えばやり方も違う、こだわりも違う、プライドも違いますが…。また、元気な人、不調が続いている人、ちょっとしんどい人など、時期や日によっても様々です。でも、その時の自分のできる力で仕事をする事は同じです。一人ひとりの力が集まり、集団となり、みんなでその日の仕事を終わらせる日々。今日も楽しく？しんどい仕事をこなします。それが私の作業所です。

ゆめ・やりたいこと実現センターのこれまでとこれから



社会福祉法人一麦会は、2018年に文部科学省から障害者の生涯学習事業を受託して以来、「学び合うそして創り合う」をテーマに、紀の川市粉河の古民家山崎邸を拠点にゆめ・やりたいこと実現センターとして活動を行ってきました。

この5年間、ひとりの「やりたいこと」からスタートしみんなで取り組む『やりたいこと講座』と少人数でじっくり学ぶ『連続講座』を実施。さらに、昨年度からは紀の川市公民館講座の開設により障害のある人の楽しい学びが広がりました。

また、毎週水曜日の『夕刻のたまり場』は、みんなで雑談したり、ボードゲームをしたり、ゴロゴロしたり、悩みをつぶやいたり、Zoom たまり場も開設し、すっかりみんなの居心地のいい場所になっています。

昨年度の活動も文部科学省より高い評価をいただきましたが、これは講師やボランティアの皆さん、行政関係の皆さん、そして何より障害のある人たちがいてくれたからこそできたものです。

今年度からコーディネーターはひとり体制とし、障害者の生涯学習サポーターを増やしていくことを柱に据えています。私もこの活動が地域に根付くようにサポートしていきたいと思っています。

(ゆめ・やりたいこと実現センター 藤本 綾子)

ゼロエンマーケットへ♪

紀の川生活支援センターでは4月13日現在、5月14日(日)第3回ゼロエンマーケット in 紀の川市の準備をしています。主に市内在住の外国の方を対象として粉河駅前の古民家山崎邸・とんまかスクエアにて開催されます。ゼロエンアートカフェ・ゼロエンアートワークショップ・ボランティア講座をします。企画・運営からメンバー達と共に進めています。カフェでは以前からアート活動をされているメンバーさんの心温まる作品を展示予定。多くの方に見てもらえる機会もでき、カフェでのやりとりを通して地域の方との交流

ができればと考えています。メンバーさんの「見てくれた人の中で1人でも幸せな気持ちになってくれたら嬉しい」という想いを聞いて、職員は既に幸せな気持ちになりました(涙)。ワークショップでは、経験のあるメンバー



さんを中心にクラフトバンドで小物作りを企画しており、どんな作品が出来上がるのか今からとても楽しみです♪第4回は11月に貴志川で開催予定です。

(麦の郷紀の川生活支援センター 吉井 美紀)

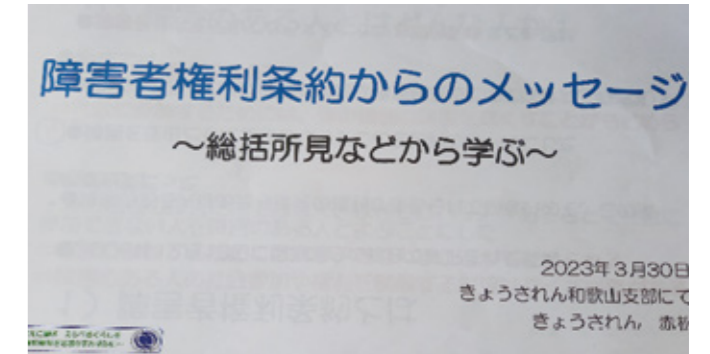


障害者権利条約からのメッセージ ～総括所見から学ぶ～

3月30日(木)17時よりWEBにてわされん(和歌山県共同作業所連絡会)主催の管理者・施設長研修会「障害者権利条約からのメッセージ～総括所見から学ぶ～」(参加54名)が行われました。

2014年1月に日本政府が障害者権利条約を批准してから8年、2022年の8月22日・23日に国連本部のスイスのジュネーブにて障害者権利委員による日本政府報告書に関する初の審査が実施されました。その内容をわされんでも学びたいと、きょうされん常務理事の赤松英知氏を講師にお迎えし、お話しいただきました。

赤松さんのお話を聞く中で、日本政府の報告内容と障害者権利委員の総括所見には大きな隔りがあり、日本が批准した権利条約の目指すものには残念ながら至っていないという印象を強く受けました。また、私自身も感じる事が多くありました。障害者権利条約の特徴は、障害のある人を「保護の客体から権利の主



体へ」としてとらえ直しているところです。例えば「支援」という私たちが普段使っている言葉にも、対等性から適切なのかという観点が必要です。

道のりは遠いかもしれませんが、声を上げづらい人々が当たり前前に声を上げやすい社会となるよう、一人一人が権利条約を学び、地域の方々に丁寧に届けていく必要があります。(くろしお作業所 城 喜貴)

第二こじか園 卒園式・おともだち式(入園式)



2023年度3月27日に第二こじか園で卒園式がおこなわれました。年度初め卒園児グループは5名でスタートし、途中で1名の友だちがドイツへ転居して4名の卒園式となりました。今年のグループ名は「とうもろこしグループ」。お日様に向かって高く凛と立つとうもろこしのよう、一人ひとりが心も体も心のびと育ててほしいと名付けられました。「友だちと一緒にいい」「なんで気持ちわかってくれないの?」「これがしたい」など、はっきりと自分の気持ちをそれぞれの形で表現する姿になりました。卒園式当日には、別れる寂しさに、「目が熱い」と顔を手でふさぐ子どももあり、その姿に心が熱くなりました。

4月7日には、おともだち式がおこなわれました。元気いっぱいの新入園児11名を迎え、全33人。園庭には元気な子どもたちの声が響き渡っています。こじかっこ生活の中で自分の気持ちをいっぱい表現するように、じっくり・ゆっくり・たっぴり・丁寧に保育していきたいと思っています。

(第二こじか園 中本 ころこ)

きょうされんグッズデザインコンクール



入賞

やったー
うれしいです。

和歌山生活支援センター
矢野 美曇さん

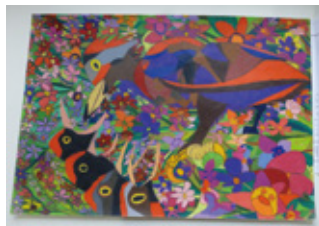


橋杭岩～弘法大師生誕 1250年～



賞をもらえてとても嬉しいです。
きれいな花とキツツキの親子を、たくさんの人に見てほしいです。
これからも、かわいい動物の絵をいっぱい描こうと思います。

和歌山生活支援センター
澁田 大輔さん



キツツキの親子

「冷凍冷蔵庫」お礼



和歌山県共同募金会様より「冷凍冷蔵庫」購入に390,000円をいただき、30年を超える老朽化した冷凍冷蔵庫を買い替えることができました。調理の現場ではさらに品質強化が実現でき、携わる障害者の方々も製造に意欲的になりました。

和歌山県共同募金会様・ご協力賜りました関係者の皆様に感謝申し上げます。

(おぎピース 鈴木 悦子)

地域とのつながりができました



くろしお作業所も班は、地域の方から借りている畑で野菜を作っています。夏野菜、冬野菜と種類も豊富に作ってはいるのですが、その野菜の販路に悩んでいました。そんな時、とあるつながりから昨年の冬頃、和歌山市手平にあるミートハウスよへなさんで野菜を販売していただくことになりました。地域との新しいつながりができたことに、仲間も職員もとても嬉しく思っております。売れ行きも好調なようで、ますます作業の励みになります。

(くろしお作業所 川崎 愛香)

ノウフク動画に出演しました!

一般社団法人和歌山県セルフセンターと和歌山県が連携してノウフク紹介動画を作りました。ソーシャルファームもぎたても登場しています。ぜひご覧ください。



むきのひと



事務所
西岡 聡子

事務所の西岡です。入社してこの5月で7年目になり、こじか園・麦の郷印刷・麦の郷紀の川生活支援センターを担当させていただいています。仕事内容は、事業所内で発生する収入・支出のお金の流れや、市町村等に提出する書類を作成することが主になります。社会福祉事業の経験がなく、1から覚えることがたくさんありました。今もなお、改正等があると事務所内で話し合いや試行錯誤しながら、日々学ぶことが多いです。

基本的に事務所での仕事がメインですが、職員や仲間との関わりも大切にしたいと思っています。現場を見て、いろいろ感じたり、コミュニケーションを取って、事務として何が出来るかを考えていきたいです。また個人的には、職員や仲間の困り事を汲み取れる、関わりやすい人になりたいと思っています。

事務員として出来る範囲は限られているかもしれませんが、福祉従事者の一人として頑張っていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。